

新たな総合計画基本構想策定に係る 意見集約結果について

令和8年（2026年）5月

目次

1. ワークショップ・ヒアリングについて	2 ページ
1 – 1. 開催の背景・目的	3 ページ
1 – 2. 開催状況一覧	4 ページ
1 – 3. 開催概要	5 ページ
2. 参加者意見	8 ページ
2 – 1. Well-Beingワークショップ	9 ページ
2 – 2. 未来デザインワークショップ	10 ページ
2 – 3. グループヒアリング（中学生対象）	21 ページ

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-1. 開催の背景・目的

- 函館市では、令和9年度（2027年度）を始期とする新たな「函館市基本構想」の策定に向けた取り組みを進めています。
- 構想の策定にあたっては、本市のまちづくりに市民の意見を取り入れること、また、構想の策定段階から市民が参画し、まちづくりについて主体的に検討いただくことが重要と考えています。
- 市民が抱く函館の強みや弱み、未来の函館に対する思いや願いなど、多様な意見を新たな構想の策定に活かすため、令和7年（2025年）7月～11月にかけて下記ワークショップおよびヒアリングを実施しました。

① Well-Beingワークショップ（令和7年7月）

市職員および地域関係者を対象に、Well-Being指標を活用したまちづくりについて共通理解を深めること、指標の具体的な活用に係る意識醸成を目的としたワークショップ（計2回）

② 未来デザインワークショップ（令和7年8～11月）

次期基本構想策定における市民参画の重要プロセスとして、Well-Being指標等を用いた自由な討議や発表を通じ、函館市への想いや将来のまちづくりに関する市民の多様な意見を広く集約し、構想の策定に活かすことを目的としたワークショップ（地域開催6回・次世代人材対象3回 計9回）

③ グループヒアリング（令和7年11月）

市内の中学校生徒（生徒会役員）を対象に、函館市の現状や将来像について、次世代を担う子どもたちの視点による率直な意見を聴取し、その柔軟な発想等を次期基本構想の策定に活かすことを目的としたグループヒアリング（計4校）

【用語解説】

・ ウェルビーイング（Well-Being）

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあり、個人の権利や自己実現が保障されていること。（厚生労働省ホームページを参考）

・ Well-Being指標

市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」をデータとして可視化し、客観的に把握するための指標。（デジタル庁ホームページを参考）

※本資料は、上記の実施結果を共有するとともに、構想策定に向けた基礎資料とすることを目的に作成したものです。

1. グループワーク・ヒアリングについて

1-2. 開催状況一覧

①Well-Beingワークショップ（計2回）

計51人参加

No.	開催日時	会場	対象者	参加者数
1	令和7年7月11日（金）10:00～17:00	函館市役所	市職員	30人
2	令和7年7月27日（日）10:00～16:30	北海道教育大学函館校	地域関係者	21人（うち市職員5人）

②未来デザインワークショップ（地域開催 6回・次世代人材対象 3回 計9回）

計123人参加

「地域開催」

No.	開催日時	地域	会場	対象者	参加者数
1	令和7年8月24日（日）13:30～16:30	東央部	市民会館	市民 ※高校生以上。 市内通勤・ 通学者を含む	24人（うち市職員3人）
2	令和7年9月21日（日）13:30～16:30	中央部	青年センター		23人（うち市職員3人）
3	令和7年10月8日（水）13:15～15:45	東部	南茅部総合センター		20人（うち市職員1人）
4	令和7年10月18日（土）13:30～16:30	東部	恵山コミュニティセンター		16人（うち市職員3人）
5	令和7年10月26日（日）13:30～16:30	北東部 （北部）	北海道ハウスタウンプラザ （亀田交流プラザ）		22人（うち市職員3人）
6	令和7年11月29日（土）13:30～16:30	西部	地域交流まちづくりセンター		18人（うち市職員3人）

「次世代人材対象」

計48人参加

No.	開催日時	会場	対象者	参加者数
1	令和7年8月6日（水）13:30～16:00	函館サーモン・まるなまホール （市民会館）	高校生	24人（うち市職員3人）
2	令和7年8月21日（木）13:30～16:00	函館市消防本部	市インターンシップ 実習生	11人（うち市職員4人）
3	令和7年11月9日（日）13:30～16:00	北海道ハウスタウンプラザ （亀田交流プラザ）	大学生 ※院生を含む	13人（うち市職員3人）

③グループヒアリング（中学校等 計4校）

計20人参加

No.	開催日時	対象校（会場）	対象者	参加者数
1	令和7年11月17日（月）15:30～16:00	函館市立巴中学校	生徒会 役員の 生徒	7人
2	令和7年11月18日（火）15:45～16:15	函館市立戸井学園		4人
3	令和7年11月20日（木）15:30～16:00	函館市立銭亀沢中学校		3人
4	令和7年11月27日（木）15:50～16:20	函館市立北中学校		6人

【参考】未来デザインワークショップ
「地域開催」
（市職員16人を除く）
市民参加者の年齢分布

	参加者数（割合）
10代	24人（22.4%）
20代	14人（13.1%）
30代	9人（8.4%）
40代	17人（15.9%）
50代	21人（19.6%）
60代	12人（11.2%）
70代	9人（8.4%）
80代	1人（0.9%）
計	107人

※割合は小数点第2位を四捨五入

延べ242人が参加

①51人+②171人+③20人

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-3. 開催概要①

■ ①Well-Beingワークショップ（計2回）

- ・ Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるため、市職員・地域関係者を対象に、他都市とのデータ比較や各団体関係者の専門性を活かした意見交換などによるワークショップを開催した。
- ・ 講師は、Well-Being指標活用ファシリテーターである(株)スピーキングエッセイ 大嶋 友秀氏が務めた。
（デジタル庁「Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業」による）

【第1回 市職員向け】

- 日時：令和7年7月11日（金）10:00～17:00
- 場所：函館市役所
- 参加者：30人（40歳以下，6グループ×5人）
- 内容：Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるほか、他都市とのデータ比較を応用したグループワークを実施



【第2回 地域関係者向け】

- 日時：令和7年7月27日（日）10:00～16:30
- 場所：北海道教育大学函館校
- 参加者：21人（うち市職員5人）
- 内容：Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるほか、各団体関係者の専門性を活かした意見交換などのグループワークを実施



1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-3. 開催概要②

■②未来デザインワークショップ（地域開催 6回・次世代人材対象 3回 計9回）

- ・市のホームページや広報紙，市内各所へのリーフレット配架等により広く市民から参加者を公募したワークショップ（各地域 計6回）に加え，次世代を担う若者（高校生，大学生，市インターンシップ実習生）を対象にしたワークショップ（計3回）を開催した。
- ・参加者のまちづくりにおける関心分野を考慮して少人数グループ（4～6人程度）を編成し，Well-Being指標を活用して本市の強みや弱み，将来像などについて自由闊達な意見交換を行い，模造紙を用いて発表・参加者間で共有した。

【話し合いテーマ】

- ・函館市の**強み**（今後も活かしたい点など）
- ・函館市の**弱み**（今後改善したい点など）
- ・**未来の函館**はどんなまちになってほしいか
- ・未来の函館のために**私たちができること**
- ・函館市の**将来像**

【グループ構成（分野①～④で班分け）】

- ・**分野①**：結婚，子育て，教育，人材育成
- ・**分野②**：地域経済（地元企業，雇用等），企業誘致，一次産業の振興（農林水産業），労働環境
- ・**分野③**：福祉，健康，生活，公共交通
- ・**分野④**：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ

【ワークショップ当日の流れ】

- ①事務局（市）から挨拶，趣旨・当日の流れ・基本構想・Well-Being指標等を説明
- ②グループ内で自己紹介，発表者等を決定
- ③第1ラウンド（個人ワーク）
⇒函館市の強みや弱み，未来の姿について参加者個人で指標を活用し分析，意見を整理
- ④第2ラウンド（グループワーク）
⇒第1ラウンドの検討結果をグループ内で共有，意見交換，付箋等に記載し，模造紙作成
- ⑤全体発表・共有



（参加者募集リーフレット）

1. グループワーク・ヒアリングについて

1-3. 開催概要②



1-3. 開催概要③

■ ③グループヒアリング（中学校等 計4校）

・ 未来の函館について、次世代を担う中学生が抱えている率直な思いや願いなどを把握するため、市内4校の生徒会役員を対象としたグループヒアリングを実施

【ヒアリング実施校】

- 函館市立巴中学校（実施日：令和7年11月17日）
- 函館市立銭亀沢中学校（実施日：令和7年11月20日）

- 函館市立戸井学園（実施日：令和7年11月18日）
- 函館市立北中学校（実施日：令和7年11月27日）



2. 参加者意見

2. 参加者意見

2-1. Well-Beingワークショップ

Q1. 函館はどんなまちですか？

【強み（今後も活かしたい点など）】

- ・お金がかからず住みやすい
- ・居心地が良い
- ・都市・立地上のポテンシャルが高い
- ・医療・福祉施設が充実している
- ・公共交通を利用できる
- ・再活用できそうな建物が多い
- ・元気な高齢者が、仲間と様々な学びの場で芸術・文化・スポーツに親しんでいる

【弱み（今後改善したい点など）】

- ・若者が楽しく生活することが難しい（移動、遊び、買い物など）
- ・若者が希望する就職先が少ない、雇用創出に努力が必要
- ・健康寿命が短い
- ・人手不足
- ・雇用に関する満足度が低い
- ・子育て支援が手薄
- ・公共交通の利用者評価が低い、若年層や高齢者にやさしくない
- ・施設の魅力UPが足りない（SNS発信は行っているが…）
- ・デジタル弱者の高齢者が多い

Q2. 未来の函館はどんなまちになっていてほしいですか？

- ・住みやすさを活かした教育・仕事・子育てが好循環するまち
- ・雇用・所得を増やし、将来を安心して暮らし続けられるまち
- ・若者が流出しないまち
- ・魅力再生！

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

- ・周りの人に函館の良さ、課題を再認識してもらう
- ・まちの魅力を発信して共有する
- ・デジタル弱者をサポートする
- ・住民の主体形成。自分たちがこのまちを変えていく！
- ・なるべく地域の中でお金がまわるように生活する
- ・行政と対話する

2. 参加者意見

2-2-1. 未来デザインワークショップ（分野①）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野①：結婚，子育て，教育，人材育成」

【強み（今後も活かしたい点など）】

教育環境・施設

- ・小学校・中学校・高校や高等教育機関（大学・専門学校など），教育施設が充実
- ・特色ある学びの機会（IT教育，地域学習（函館学）など）

観光，歴史，文化，芸術

- ・観光資源が豊富（夜景，お祭り，GLAYなど）
- ・豊かな歴史や文化・芸術（港まち，縄文など）

自然環境，食

- ・自然の恵み（海・山・きれいな空気など）
- ・過ごしやすい気候（夏は比較的過ごしやすく，冬は道内では雪が少ない）
- ・豊かな食

市民性，地域コミュニティ

- ・地元愛が強い
- ・地域コミュニティのつながり

その他

- ・治安が良い
- ・買い物の利便性
- ・医療が充実

【弱み（今後改善したい点など）】

子育て支援，子育て・教育環境

- ・子育て支援（支援内容，費用負担，情報発信など）
- ・保育園・幼稚園が少ない
- ・教育機会の不足・教育格差

人口減少，若者流出

- ・若者にとって魅力的な就職先が少ない
- ・所得水準が低い
- ・高校卒業後の進学先が限定的

生活環境

- ・娯楽施設や遊び場が少ない

その他

- ・公共交通が不便
- ・健康寿命が短い
- ・東部地域から高校に通うコストが高い

2. 参加者意見

2-2-2. 未来デザインワークショップ（分野②）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野②：地域経済（地元企業、雇用等）、企業誘致、一次産業の振興（農林水産業）、労働環境」

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光

- ・観光資源が豊富（夜景、温泉、歴史的建造物、お祭りなど）
- ・観光産業が盛ん

食

- ・豊富な水産資源（イカ、コンブ、ブリなど）
- ・農・水産業や加工業が盛ん
- ・日本酒・ワイン

教育機関、研究開発

- ・高等教育機関（大学や高専等）が多く、人材輩出がある
- ・大学発ベンチャーが多い

都市ブランド、知名度

- ・「函館」の高いブランド力・知名度

その他

- ・自然が豊か
- ・陸・海・空の交通の利便性が良い
- ・災害が少ない

【弱み（今後改善したい点など）】

企業、雇用

- ・就ける職種が限定的
- ・規模の大きい企業が少ない
- ・所得が低い
- ・雇用が少ない
- ・労働環境が悪い
- ・企業誘致が難しい

人口減少、人手不足

- ・若者をはじめとした人口減少
- ・一次産業（漁業等）の担い手・後継者不足

観光依存、オーバーツーリズム

- ・観光産業への依存度が高い
- ・オーバーツーリズムの弊害

その他

- ・公共交通が不便
- ・空き家が多い

2. 参加者意見（テキストマイニングで可視化）

2-2-2. 未来デザインワークショップ（分野②）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野②：地域経済（地元企業、雇用等）、企業誘致、一次産業の振興（農林水産業）、労働環境」

ワークショップ分野②参加者の意見（函館市の強み・弱み）を基に、AIによるワードクラウドを生成（出現頻度を文字サイズで可視化）
※「函館」のような前提となる言葉を除外し、表現の違い（「小・中」と「小学校・中学校」など）は同義語として統合

【強み（今後も活かしたい点など）】



【弱み（今後改善したい点など）】



【凡例】
名詞
動詞
形容詞

※ユーザーローカル テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

【意見の概要】

- ・ **強み**：「水産業」や「観光」などの基盤産業と、豊かな「自然」や高い「知名度」が主要な強みです。加えて、「高等教育機関」や「大学発ベンチャー」の集積なども、地域経済活性化の重要な資源として高く評価されています。
- ・ **弱み**：「人口減少」に加え、「仕事」に関する懸念が顕著です。特に「やりたい仕事」や「職種」の選択肢が乏しく、「雇用・所得」の低さが課題とされています。また、「観光頼み」の構造や「担い手不足」など、地域産業の脆弱さを指摘する意見も複数寄せられました。

2. 参加者意見

2-2-3. 未来デザインワークショップ（分野③）

Q1. 函館はどんなまちですか？

«分野③：福祉，健康，生活，公共交通»

【強み（今後も活かしたい点など）】

医療，福祉，健康

- ・医療機関・福祉施設が充実
- ・地域包括支援センターの相談体制
- ・市民の健康意識が高い

交通

- ・市外との交通アクセスが良い
（空港，JR，港，フェリーなど）
- ・多様な公共交通機関（市電，バスなど）

生活環境

- ・まちがコンパクトで生活しやすい
- ・自然災害が少ない
- ・地域のつながりが強い
- ・ごみ収集形態が戸別収集（路線収集）

観光，食

- ・観光名所が多い
- ・食べ物がおいしい

その他

- ・二拠点生活者の増加

【弱み（今後改善したい点など）】

公共交通，移動手段

- ・公共交通が不便
- ・車がないと生活が不便（通院，通学，買い物など）

若者流出，人材不足

- ・若者にとって魅力的な就職先が少ない
- ・人材不足（医療・介護・福祉，バス運転手など）

医療，福祉

- ・健康寿命が短い
- ・健康診断の受診率が低い

生活環境

- ・娯楽（施設）が少ない
- ・子どもの遊び場が少ない

その他

- ・旧市内・東部地区間に格差
（公共交通，医療機関，社会資源など）
- ・歩道・車道の整備状況
- ・町会加入率が低い
- ・つながりの希薄化

2. 参加者意見

2-2-4. 未来デザインワークショップ（分野④）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ」

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光，歴史，文化

- ・観光資源が豊富
（夜景，五稜郭，景観，歴史的建造物，イベントなど）
- ・豊かな歴史
- ・まちの知名度が高い
- ・国内外の観光客が多い
- ・世界遺産（縄文遺跡）・国宝（カックウ）
- ・クルーズ客船がたくさん来る

生活環境

- ・自然が豊か・身近
- ・住みやすい

食

- ・食べ物がおいしい
- ・飲食店が多い

その他

- ・空港の利便性

【弱み（今後改善したい点など）】

人口減少，若者流出

- ・若者をはじめとした人口減少

地域経済

- ・若者にとって就職先の選択肢が少ない
- ・雇用が少ない

生活環境

- ・娯楽（施設）が少ない
- ・車がないと生活できない

観光

- ・外国人観光客への対応
- ・新たな観光スポット

その他

- ・公共交通が不便
- ・買物が不便
- ・道路環境が悪い
- ・行政の移住・定住施策が物足りない
- ・プロスポーツチームの誘致

2. 参加者意見

2-2-5. 未来デザインワークショップ

Q2. 未来の函館はどんなまちになってほしいですか？

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・安心して子育てできるまち
（充実した子育て支援，安定した雇用，利便性の高い公共交通など）
- ・若者や子どもたちが住み続けたいと思えるまち
- ・進学や就職を機に函館を離れても，戻ってきたいと思えるまち
- ・子どもや若者が多様な選択肢・可能性を持てるまち
- ・郷土愛や文化を受け継ぐまち
- ・他者とつながり，心豊かに幸せを感じられるまち
- ・自然の恵みや地域とのつながりを活かした教育が充実したまち

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・高齢になっても安心・充実して暮らせるまち
（医療・福祉・介護の充実，社会参加，利便性の高い公共交通など）
- ・思いやり・助け合い・支え合いが浸透したまち
- ・車がなくても生活しやすいまち
（利便性の高い公共交通，AI活用，歩道・自転車専用道路の整備など）
- ・若い人が住み続けたいと思えるまち
- ・健康づくりに積極的なまち
- ・世代や背景に関わらず，誰もが住みやすく生活しやすいまち
- ・多世代交流が盛んなまち
- ・市街地と郊外に地域格差がないまち
（幸福度，医療・福祉，交通など）
- ・若者世代の意見に耳を傾けられるまち

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・人口が増えて活気や活力があるまち
- ・所得水準が上がり，雇用が充実・安定しているまち
- ・新しいことに挑戦できる，新しいものを取り入れるまち
- ・やりたい仕事・やりがいのある仕事に就けるまち
- ・観光消費などが地域内で好循環するまち
- ・魅力的な企業を誘致できるまち
- ・第一次産業が強化されたまち
- ・外国人など多様な人が働きやすいまち
- ・大学発ベンチャー支援が充実したまち
- ・娯楽・商業施設が充実したまち
- ・函館だからできるを探せるまち

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・移住したくなるまち（移住支援・雇用の充実，交流の場づくりなど）
- ・若者が住み続けたい，帰ってきたいと思えるまち
（雇用・娯楽・商業施設などの充実，奨学金補助，理系の就職先増など）
- ・都市景観や歴史的建造物，地域文化を大切にすまち
- ・人口が増えて賑やかなまち
- ・観光の賑わいと豊かな市民生活が両立するまち
- ・心の豊かさや，まちへの誇りが育まれるまち
- ・自然やITなどを活かした取組が多いまち
- ・子どもや子育て世代が増えるまち
（学校・大学の誘致，雇用の充実など）
- ・第一次産業と観光を結びつける仕組みがあるまち

2. 参加者意見

2-2-6. 未来デザインワークショップ

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

【分野横断的な意見】

- ・ 函館を理解して知る
- ・ 様々な情報を知る
- ・ 函館の現状を受け止めて自分の考えを持つ
- ・ 「私でできることなら・・・」を重ねみんなへ広げる
- ・ 職場や学校などのコミュニティで発信する
- ・ 選挙に行く
- ・ 地域に関心を持つ、関心を持つ人を増やす→選挙を大切に
- ・ 市政に関心を持つ
- ・ 市政への参画意識を高める
- ・ 「市民の声」を活用するなど、声をあげ続ける
- ・ 市議会に積極的に参加する
- ・ 各学校で意見を出す場を作る、市民からの意見を募る
- ・ 市民の声を多く集めて市へ提言、法整備につなげる
- ・ 昭和の人たち、平成の人たち、令和の人たち、みんな仲良く！！

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・ 結婚する
- ・ 子どもを大切にする
- ・ 子どもたちに一つでも良いものを残す
- ・ 子どもたちの未来が良くなるよう考え行動する
- ・ 「ちょうど良いまち」を口コミ，SNSで草の根的に広める
- ・ 一人ひとりが函館市民として自覚を持とう！
子どもの時から函館の良さを学ぼう！
大人は子どもに函館の魅力を伝えよう！
- ・ 高校生と園児が交流する機会を増やす
- ・ 背中を見せる！
- ・ 何事も行動で示す
- ・ 勉強する
- ・ 函館をフィールドに研究する
- ・ 若者と地域の人々などが交流できる機会を増やす
- ・ 高校の地域探求学習を通じて、いいところマップを作成する
- ・ 様々な世代，親，先生から若者へ情報発信する
- ・ NPO法人を立ち上げる
- ・ クラウドファンディングを活用する

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・ 函館で買い物や函館の企業を利用して地域経済を回す
- ・ 地産地消
- ・ 函館で働く，函館の企業に就職する
- ・ 函館で働いてまちの活性化に協力する
- ・ 「函館で働く」とをまずは考える
- ・ 函館の企業等のインターンシップに参加する
- ・ 函館市内の会社説明会などに行き、若い人を呼び寄せる
- ・ 若い世代へ仕事のやりがいを継承する
- ・ 挑戦する人を応援する
- ・ 起業する
- ・ 若者が起業しやすい場を作る
- ・ 企業と学校の連携を深める
- ・ お金を使うように伝える
- ・ 魚種の変化に対応する
- ・ アメリカオニアザミをやっつける！！
- ・ 仲間を集める
- ・ やりがいを見つける
- ・ 人にやさしくする

2. 参加者意見

2-2-7. 未来デザインワークショップ

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・職場にボランティアを導入する
- ・地域のことを把握し，身近な人などに声がけする
- ・健康意識を高める
- ・健康診断を受診する
- ・健康に生きる
- ・ゴミ拾いをする，ゴミのポイ捨てをしない
- ・マナー・モラル・ルールを守る
- ・町会に加入する
- ・町会を再活性化する
- ・住民同士のつながりを作る（町会加入，防災対策）
- ・地域コミュニティ（町会，祭りなど）に積極的に参加する
- ・人とのつながりを作る
- ・住民同士のつながり，地域力を高める
- ・「地域も元気」↔「自分も元気」の二刀流
- ・地域課題などを自分ごとと考える
- ・人が集まれる環境・コミュニティをつくる
- ・多世代コミュニケーションがとれる場をつくる
- ・多様な人を受け入れる
- ・色々な世代の人たちと意見を交わす
- ・積極的に意見交換会などに参加する
- ・まちの魅力となるような住民生活を行う
- ・生活の安定と心のうるおいを持つ
- ・継続して今の職場で地域貢献する
- ・本当の豊かさとは何かを追求した暮らしをする
- ・近所の人たちと仲良くする
- ・エコ活動を行う
- ・安全運転をする
- ・積極的に公共交通機関を利用する

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・活性化に貢献したいと思っている人はたくさんいるはず
その点を線でつなく活動をする
- ・イベントに積極的に参加する
- ・イベントを人に紹介する
- ・地域会館や地域センターを活用し，ワークショップや子育てサロン関係，キッチンカーの出店などを行い，地域の幸福度を向上させる
- ・モルック大会などのイベントを実施する
- ・南茅部でGW期間中などに屋台などを開く
- ・ミニ水族館をつくる
- ・SNS等を活用して函館の魅力や情報を発信する
- ・地域住民自身が「〇〇な街にしたい！」という思いをもって発信！
（自由な発想で！）
- ・函館市民が観光宣伝の意識を持つ
- ・観光客と地元民のつながりの場をつくる
- ・観光資源を再発見する
- ・住民（地元民）自身が地域に誇りを持つ
- ・二拠点居住を勧める
- ・移住者から函館のまちの良さ，課題を教えてもらう
- ・移住サポーター・地域おこし協力隊として，
函館や地域のPR活動を頑張る！
- ・Uターン移住者の成功例を発信する
- ・函館の文化について知る

2. 参加者意見

2-2-8. 未来デザインワークショップ

Q4. 函館の将来像（キャッチフレーズ）を考えてください

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・はこそだてマラソン！
光の街はこだて 未来の灯は誰が灯すのか？
- ・帰ってきたい町にする
- ・キラキラ輝け！子どもの未来！
- ・誰もが明るく幸せで活力のまるまち
- ・様々な世代が住み続けられるまち
- ・ちょうどよい田舎
- ・世代を越えてつながり愛着をもって定住する！！
- ・楽しさをつなぐ 戻りたくなるまち

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・新しいことにチャレンジできるまち
- ・生産・消費・雇用の好循環シティ
- ・住みやすく安心して働けるマチ
- ・お金が地域で循環し，若者が笑顔で活力あるまち
- ・「地域で経済を回す」
～ここに住む人が安心して住み続ける～
- ・都会と田舎のハイブリッド～雇用機会と自然にあふれる町～
- ・地元企業で働きたくなるまち

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・「知らない」「わからない」がない街函館
みんなが函館に関心を！！そうだ！！選挙に行こう
- ・自他ともに健康な人が多いまち
- ・変わらずステキなまち
- ・住んでいる人々が豊かなまち函館！
- ・100歳でも活躍できるまち
- ・「希望にあふれるまち函館」
- ・世代を支えるスムーズな交通と医療体制
- ・子どもから高齢者までお祭りさわぎなまち
- ・！函境改革！

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・生活の安定と心の潤い アートが楽しめる街ハコダテ
- ・公共交通の充実化（賑わい，住みやすい）
- ・地元を盛り上げよう！
- ・関係人口の向上，若者とセカンドキャリアの方々が働きやすく，生活しやすいまちをめざす
- ・様々な世代の意見を取り入れ，弱みを改善することで，地元の雇用を増やしていく
- ・「幸福度・住みやすい街 全国ランキング1位」
好きですHAKODATE
- ・Beautiful City HAKODATE
- ・住んでみないイカ？函館に！

2. 参加者意見

2-3-1. グループヒアリング（中学生対象）

Q1. 函館はどんなまちですか？

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光

- ・観光客が多い（国内・国外）
- ・観光スポット・観光名所が多い
（夜景，函館・五稜郭公園，五稜郭タワー，朝市，歴史的建造物）

食

- ・食べ物がおいしい（海産物，ラーメン，イカ）
- ・函館にしかないグルメがある

自然

- ・海や山が近くて自然が豊か
- ・四季を感じられる
- ・空気が澄んでいる

歴史，文化

- ・歴史がある
- ・みんなで楽しめる文化がある
（港まつり，クリスマスファンタジーなど）
- ・いか踊りが函館の伝統として引き継がれている
- ・お祭りが伝統より楽しさを重視している

生活環境

- ・静かで過ごしやすい
- ・街並がきれい
- ・子育て環境が充実している
- ・待機児童がゼロ
- ・公共交通の種類が多い
- ・誰にでも親切に話しかける

【弱み（今後改善したい点など）】

娯楽，商業

- ・遊ぶところがない・少ない
- ・若者が楽しめる娯楽・商業施設が少ない
- ・お店の閉店時間が早い

移動，交通

- ・公共交通など移動手段が不便
- ・道路の状態が悪い（老朽化，複雑，混雑）
- ・冬は雪が多くて移動が大変
- ・旧4町村から高校へのアクセスが悪い

生活環境

- ・ゴミのポイ捨てが多い（歩道，海岸など）
- ・観光メインのまちづくりで，市民にとって便利ではない
- ・川や海が近いのに遊べる場所が少ない
- ・除雪が甘い
- ・空き家が多い
- ・火事が多い
- ・地域格差が大きい
 - ・中心部：施設や交通機関が充実している
 - ・旧4町村：バスの便数が減り，商業施設も少ない

観光

- ・若者の観光客が少ない
- ・季節によって観光客数に偏りがある

その他

- ・人口が急激に減っている
- ・大学・就職先が少ない

2. 参加者意見

2-3-2. グループヒアリング（中学生対象）

Q2. 未来の函館はどんなまちになってほしいですか？

観光・イベント

- ・魅力的なイベントが多いまち
（魅力：新規性，参加型，学生主体，雪を活用，早い時間帯，自宅からの距離の近さなど）
- ・観光客に選ばれるまち
（温泉や自然を活かしたツアー造成，アクセス向上など）
- ・新たな観光スポットを生み出せるまち
- ・SNSを活用して国内外にまちの魅力をPRできるまち

まちづくり

- ・若者にとって魅力があるまち
（魅力：娯楽，ショッピングモール，職種，賃金，住居，学校，遊園地，水族館，スポーツ施設など）
- ・いつまでも住み続けたいと思えるまち
- ・市民向けのサービスや施策が充実しているまち
- ・街中が活気づき全世代が盛り上がるまち
- ・子育て環境が充実しているまち
- ・公共交通をはじめ交通手段が充実しているまち
- ・市内のどこに住んでいても買い物等に不便を感じないまち
- ・市民・地域・自治体間のつながりや交流が盛んなまち
- ・SDGsの取組を推進しているまち
- ・まちの風景が変わらないまち
- ・空き家を有効に活用しているまち（リノベーション後に宿泊施設や飲食店などに活用）
- ・火災予防が徹底されたまち
- ・道路の標識が見やすく改善しているまち
- ・学校や地域でICT活用が進んでいるまち

地域経済

- ・産業が発展したまち
- ・大手IT企業等の企業誘致を推進しているまち
- ・イカ以外の特産物を開発できるまち

生活環境

- ・ポイ捨てが少なく清潔なまち
- ・困っている人に話しかけるなど，思いやりのある人が多いまち

2. 参加者意見

2-3-3. グループヒアリング（中学生対象）

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

地域活動・交流

- ・地域の行事やイベントに参加する
- ・地域のつながりを深める
- ・ゴミ拾いなどのボランティア活動を行う
- ・声かけ活動を行う

魅力発信

- ・SNSを活用して函館の魅力を発信する（観光スポットや食べ物など）
- ・カラフルな目立つポスターを作成して函館をPRする
- ・小学生にポスターを作ってもらいSNSで周知する

生活環境

- ・困っている人がいたら話しかける
- ・ゴミを減らすなど環境にやさしい行動をする
- ・ごみポイ捨て防止ポスターをつくる

自然

- ・山に木を植える
- ・自然保護活動を行う

まちづくり

- ・学生が魅力を感じるものを増やす
- ・小さい子どもでも楽しく遊ぶことができる場所をつくる（空き家も活用）

経済、観光

- ・観光客向けのものを自分でも体験してみる
- ・地元のを積極的に購入し、そのお金で新しい若者向け施設をつくる
- ・観光客に、函館がより良いまちになるにはどうしたら良いか相談する
- ・港まつり中にゴミ箱をたくさん設置する

その他

- ・函館に関心を持つ
- ・函館のことをもっと知る
- ・自分たちの意見を市役所に伝える
- ・まちの課題改善のために、HPを作りアンケート調査を行う